



戦争について考える

8月は平和を考える特集号です。

今年には終戦から80年の節目の年となります。終戦記念日などは、

新聞やニュースなどでも取り上げ

られているので知っている方も多

いと思います。しかし、普段の生

活の中では戦争の話はなかなか話

題に上がらないのではないでしょ

うか。戦争は繰り返してはいけな

いと学んできましたが、実際に触

れる機会は少ないと思います。

そこで、私の祖母が戦争を経験

している世代だったので当時のこ

とを聞いてみることにしました。

少しですが、その内容をお話し

たいと思います。

祖母の体験談



戦時中、祖母は幼かったためあ

まり詳しい体験談は聞けませんで

したが、辛いできごとであったと

は感じることができました。

祖母の父親は、太平洋戦争で海

軍として戦地に赴き戦死しました。

家族のもとには遺骨の代わりに石

ころが届いたそうです。戦後は母

親が働きに出いたので幼い妹を

背負って料理を作るなどとても苦

労したそうです。祖母は昔のこと

を思い出したくないようで話もあ

まり聞かれたくないようでした。

心にも大きな傷が残っているのだ

原水禁世界大会にて

私は去年、広島の前水爆禁止世

界大会に参加させていただきました。

被爆者の方からお話を聞く機会があ

りました。原子爆弾が落とされた

直後、熱風で建物は崩れ、街は一

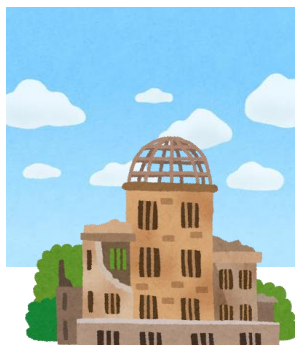
瞬で焼け野原になったそうです。

街には目が潰れ顔が赤く腫れ上が

った人々がふらふらと歩いていた

と聞き、想像しようとしても難し

く怖くなりました。



また、生き残った人の中には今

でもひどいケロイドに苦しんでい

る人もいると知りました。背中に

ケロイドがあるため飛行機や新幹

線に乗る時は背もたれに寄りかか

れず何時間も背筋を伸ばしたまま

など日常生活にも大変な苦労があ

るようでした。

ほかにも、被爆者ということ

差別を受けてきた人も大勢いると

知りました。被爆から何年もたっ

てやっと被爆者と認められ被爆者

手帳を受け取ることができたとい

う人もいました。多くの人が原爆

によって長い間苦しめられてきた

のだと感じました。

核兵器所持の目的は？

世界では私と同じ20代の方が

平和について考える活動を行って

いることを知りました。その中で

印象に残ったお話がありました。

核兵器を持つ国は核兵器を使うた

めに作っていて、持っている。核

兵器を持つことは核の抑止力には

ならず平和を壊すもの、保有国の

核をすべて破壊するまで核が使わ

れ続けると知り怖く思ったのを覚

えています。広島、長崎に原子爆

弾が投下され80年となりますが、

地球上には未だに1万2千発を超

える核兵器が存在します。



戦争の経験を後世へ

戦争を経験した人は年々減って

おり、戦後生まれの人口が9割を

占めると言われています。戦争の

経験を直接聞ける機会はほとん

どではないのでしょうか。戦争

の恐怖は実際に経験した人にしか

わからないと思います。同じ過

ちを繰り返さないように忘れてしま

われないように、戦争を知らない世

代に戦争の怖さ、悲惨さを語り継

いでいかなければなりません。

戦争について考える



戦争や被爆について学ぶことで

改めて今の生活が恵まれているこ

と、当たり前なことが幸せである

ことを知ることができました。祖

母は以前、今が一番幸せと言っ

ていたことがありました。当たり前

に友人と集まり、お茶を飲んでお

しゃべりができる、そんな時間が

幸せなのかなと感じました。私は

戦争や平和という規模が大きく

遠くのことにように思えてしま

います。大切な人の幸せな時間が長

く続くようにと身近な人のことを

考えると戦争や平和も身近に感じ

られるのではないのでしょうか。終

戦から80年を迎える今だからこ

そ、一緒に平和について考えてみ

ませんか？

(村田)

蚊刺過敏症 (蚊アレルギー)

夏になると、外で活動する機会も増え、蚊に刺されることがよくあります。多くは、かきむしったりしない限り、数時間から数日で痒みや腫れが引いていくものです。

しかし、まれに蚊に刺されて、激しい症状を起こす人がいるので注意が必要です。



蚊刺過敏症とは

非常にまれな病気です、その名の通り蚊やブユなどに刺されることでアレルギー反応を示します。

蚊に刺された時に、蚊の唾液が皮膚に注入されます。この唾液にアレルギー反応を示し、その結果、痒みや腫れが生じます。まれに、刺された箇所がひどく腫れ、発熱やリンパ節が腫れるなどの激しい症状が出る場合があります。これが「蚊刺過敏症」です。

また、刺された箇所は血ぶくれからかさぶた、癬痕(はんこん)・刺された痕になる)になることもあります。

からだ全体に症状が出ていない場合は、「蚊刺過敏症」ではありませんが、蚊に刺されて症状がひどい場合は、「蚊刺過敏症」が疑われるので皮膚科医に相談しましょう。

原因

EBウイルスが白血球に持続感染した状態で蚊に刺されると、重いアレルギー症状がでるのでは、といわれています。

EBウイルス・ヘルペスウイルスの一種で、免疫反応に関わるリンパ球に感染し、発熱やリンパ節の腫れ、のどの痛み、発疹などの症状を引き起こすウイルス

大人も注意が必要?

体温が高くて蚊に狙われやすい幼少期に多くみられます。

しかし、高齢者における発症例も報告されており、大人は決してかからないうというわけではないため注意が必要です。



すぐに病院へ行けないときは

症状が悪化しないようにかかないことが大切です。もし持っていれば、ステロイド入りのかゆみ止めを塗りましょう。かゆみ止めがなければ、流水・保冷材を用いて患部を冷やすと痒みが和らぐ可能性があります。悪化をなるべく防ぎながら、なるべく早く医療機関を受診するようにしましょう。また、可能な限り蚊に刺されないようにに注意することが重要です。

蚊に刺されないようにするには

森林や草地、河川の近くなど自然が豊かな場所に行くときは、肌の露出をできるだけ少なくしましょう。サンダラスを装着する、帽子をかぶる、首にタオルを巻く、長袖長ズボンの衣服を着用するなどし、虫刺されから肌を守りましょう。

蚊は黒や紺色の濃い色を好む傾向にあります。明るめの色の服の方が刺されにくくなります。

また水たまりや植木鉢の受け皿に溜まった水から蚊の幼虫ボウフラが発生するので、まめに掃除をしましょう。



虫除け剤の活用

虫除け剤には、ディートやイカリジンという薬剤が含まれています。

蚊はこれらの薬剤を嫌がるので、塗布面に近づいたり、触れたりするのを防ぐことができます。ポイントは塗りむらがないように使うことです。

また、薄手の服の場合は服の上からでも刺されるので、服にもスプレーすると効果的です。

- ディート
 - 濃度12%以下のもの
 - 生後6カ月から使用可能
 - 濃度30%のもの
 - 12歳から使用可能

ただし、12歳未満では、1日の使用回数に制限があります。

●イカリジン

使用年齢に制限はなく、塗る回数にも上限がなく使用しやすい成分です。



まだまだ虫刺されの多い季節です。可能な限り蚊に刺されないようにしましょう。また、蚊に刺されて症状に少しでも違和感がある場合には、すぐに専門の医療機関を受診しましょう。

(酒井)

参考資料・サワイ健康推進課HP
池田模範堂HP



編集後記

先日「耳の栄養」を求め、アラン・メンケンのソロコンサートへ行ってきました。

デイズニー曲の作曲家として、「リトルマーメイド」や「美女と野獣」など多くの作品を手掛けている方です。御年75歳とは思えないほどの弾き語りを披露され、ご自身の半生を伺うことができ、大変素晴らしい体験ができたコンサートでした。



開催地が大阪でしたので、ついでに万博へも立ち寄りしました。イタリア館は特におすすめで、実物の彫刻などを間近で見ることができ、非常に充実した内容でした。他にも様々な国の文化に触れることができ、有意義な時間を過ごせます。



ただ、暑さ対策は怠らないように注意が必要です。(鈴木)